

## 1. 調査方法

国土地理院の5mDEM データをもとに詳細地形図(CS 立体地図)を作成し、詳細地形図と空中写真判読により岩塊流(岩塊斜面を含む)の判読を行った。判読においては、既往研究文献で整理した岩塊流の地形的特徴を有する地形を抽出した。

## 2. 調査結果

調査結果は図のとおりである。

判読の結果、岩塊流および岩塊流の可能性のある地形を抽出した。岩塊流の可能性のある個所については以下のとおりである。

- ・大森山～熊山付近および熊山東方(市民の森付近)の山頂付近には山頂小起伏面(標高480～700m)が分布する。
- ・これらの山麓部には麓層面が広く分布する。麓層面の分布範囲は日本の典型地形による岩塊斜面の分布範囲と概ね一致する。
- ・岩塊流および岩塊流の可能性のある地形は、山頂小起伏面上、もしくは山頂小起伏面直下の麓層面の上部に分布する傾向がある。
- ・岩塊流は、黒森山～熊山の北～北西側斜面において比較的まとまって分布し、岩塊流の可能性のある地形は熊山東方(市民の森付近)にまとまって認められる。
- ・岩塊流の分布は国土地理院の岩塊流の分布域と概ね一致しており、国土地理院の岩塊流の分布域外にも一部で岩塊流の可能性のある地形が認められる。
- ・熊山・黒森山付近では山頂小起伏面より標高が約100～200m 低い箇所(標高400～500m 付近)に不連続な遷急線が分布し、一部の岩塊流がこの遷急線より下の麓層面上に分布している。

## 3. まとめ

判読の結果、岩塊流および岩塊流の可能性のある地形は、大森山～熊山付近および熊山東方(市民の森付近)の山頂小起伏面上、もしくは山頂小起伏面直下の麓層面の上部に分布する傾向が見られる。

なお、本地形判読は5mDEM データに基づいた机上検討であり、5mDEM データでは表現できない地形要素については、確認することができないため、判読結果に不確実性を含んでいる。

今回の机上検討で判読された岩塊流およびその可能性のある地形要素、山頂小起伏面およびその周辺部、麓層面および浅い谷地形(特に斜面上部)については、今後、航空レーザー測量等の実施により、より高い精度で示された詳細地形図を作成し、5mDEM データでは表現できない地形要素を重点的に判読し、岩塊流の分布を確認する。

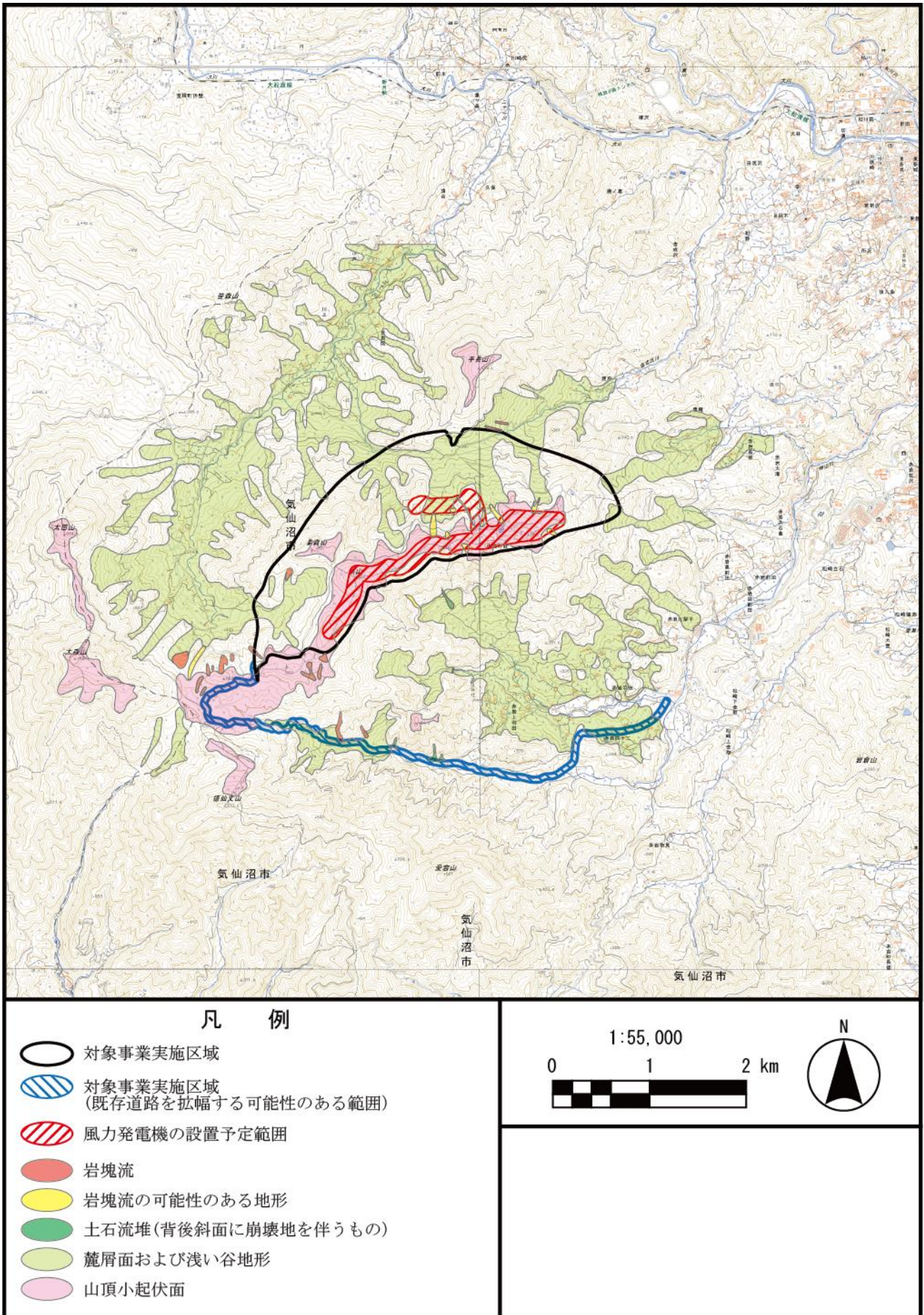


図 岩塊流・岩塊流の可能性のある地形の分布